

事業名

持続可能な美川に向けた子育て世帯定住促進事業

事業費（予算額）：520,000円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：500,000円）

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

日本全国で大きな問題となっている人口減少については、ここ美川においても例外ではなく、日本の先端を走っている。小学校等の児童の減少、店舗の減少、このまま何もせずにいると地域の衰退がさらに加速してしまう。そうした危機感から、平成 29 年度より、人口減少対策会議を毎月開催し、ワークショップ形式を主軸に地域のアンケート調査・分析等を進めてきた。平成 30 年度から、さらに目で見える形で人口増加対策を進めていき、他地域のモデルとなるような取り組みを目指す。

D 事業の概要

美川人口減少対策会議にて議論し、子育て世帯の定住及び地域活性化を大きな目標として以下の条件により子育て世帯移住者の募集を実施。

また、募集にあたっては有志によるプロジェクトチームを立ち上げ、随時協議を行っている。

- (1) 小学生以下の子どもがいる世帯
- (2) 平成 30 年 10 月 1 日以降、美川地域に転入される世帯
- (3) 移住後、美川の地域づくりに積極的に関わることのできる世帯

条件に合う子育て世帯を募集、面接を経て対象世帯を決定。対象世帯には、1 月 1 万円程度の活動費を支給し、美川の会議等に出席していただく。

・事業実施にあたって工夫（努力）したこと

- ・美川でくらす!! スローガンのもといなかつリズムを發揮した募集チラシの作成と配布方法検討
- ・成果には結びついていないが、雇用促進住宅の入居しやすい内装や付帯設備、低家賃化に向け連合自治会と連携して行政に要望している。また行政担当者に定例のプロジェクト会議へ随時参加して頂き貴重な情報を得ている。
- ・美川のホームページの利活用やチラシ配布、口コミを活用し、制度の周知を図っている。
- ・空家入居の最大問題として、仏壇の放置があった。寺院に無理を承知で相談を持ちかけたところ、お寺で預かって頂ける目処がたった。

C 課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



・上記評価の理由

現時点の子育て移住世帯は 2 世帯で目標には達してなく、達成度としては 50%である。

定例のプロジェクト会議に参加して頂き、移住者の声として都会から 1 ターンされたきかけやまだ住み始めて間もない美川の素晴らしさや魅力ある良い点を伺う中、地元民としての新たな気づきを見出すことができました。

また、町内会にも入られ隣近所・地域住民とコミュニケーションを取りながら、地域活性化へ向けた取り組みの一助になりつつある。

チラシ配布効果も出てきて、この 4 月から移住定住者が入る予定で目標達成に近づきつつある。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

- ・移住希望者へ紹介できる空家情報等の集約を図る必要がある。
- ・移住世帯をサポートできる体制づくりが喫緊の課題であり、そのためにも各関係者がこの事業を「自分ごと」として捉えるための意識改革を図る必要がある。
- ・地域イベントに積極的に参画して本活動の PR をさらに進めて行く。
- ・移住希望者に対し、体験型定住環境を造り実際に住んでいただき美川の良さを知ってもらい定住につながる活動を進める。
- ・即入居できる空家を探し、空家バンク制度の有効活用に繋げて行きたい。

空家の下見見学の様子 →

